国際交流員ウルリーケ・シュラックの

今月のウリ場

皆さんこんにちは、グーテン　タ－ク！お元気ですか？実は、これは私からの最後の挨拶となります。私の下野市国際交流員としての任期は6月の中旬に終わります。あっという間に･･･寂しいという一言では表現できない気持ちですが、心からの文章を書かせていただきます。

ご存知の通り、私の国際交流員としての仕事は今回2回目であり、仕事、職場、同僚などには慣れていて、よく知っていた環境へ戻ってきました。前回と比べて、もっと成長したい…もっと成長したかったと思いながら、結局は慣れすぎた－と反省しました。慣れたというよりも合わせすぎたというときもあって、やっぱり日本人じゃないのだと実感することもありました。それは悪いことだとは思いません。ドイツ人だからこそ下野市に来たのであり、姉妹都市関係がきっかけで、語学講座、びっくり箱（外国料理教室など）、保育園や学校訪問を通して、（デスクで仕事をしていた時間が割と少ない毎日…）いろんな人々と接する機会がとても多い仕事でした。好きだったわ。

しかし、私は一人では何もできません、私は一人では何も実現できません、私は一人では国際交流もできませんし、皆さんのおかげで思い出がたくさん作れました。いい思い出はもちろん、書ききれないぐらい多いですが、私の活動が役に立たないという思い出もあって、がっかりした時もありました。やはり慣れすぎたと…

または、5年間日本に住んでいても「お箸が上手ですね」と言われ続けていることに微笑んで、手でお箸を持ちながら、伸ばした指で手を顔の前で左右で振りながら「いいえ、いいえ」と答えたら、相手は納得の表情。そのようなエピソードがたくさんあります。しかし、それは明らかに“国際交流事業“という名前がつけられた事業以外で、もっと深いレベルの交流を生かしているエピソードだと思います･･･それは日常生活の上での「国際交流経験」。手を顔の前で振って「いいえ、いいえ」と言って会話を終わりにするのではなく、「お箸をうまく使うことができるのは日本人だけ？」という質問をしたら、議論、意見交換などがすぐに始まります。そのような会話も私の仕事でした。好だったわ。いくら考えても国際交流員としての仕事はどんな仕事も全て好きでした。ここでの5年間は私の財産となりました。

現在住んでいる栃木県、私の大好きな第2のふるさとで、旦那さんとも2005年10月に宇都宮市内で知り合い、私たちのスペシャルな経験にもなった結婚式を和服姿で石橋の愛宕神社であげました。そこまで日本が大好き！

6月8日から私の後任者として新しいドイツ人の国際交流員が下野市に来ますが、下野市の皆様が、私の時と同じように、彼をやさしく受け入れてくれると思いますので、どうぞ、これからも楽しい国際交流を続けてください。

最後になりますが、私を支えてくれた、私の面倒を見てくれた、私の安全を守ってくれた、私を励ましてくれた、市民の皆様へ心から感謝を申し上げます。いつか必ず戻ってきたいと思います。それまで皆様のご健康とお幸せを心からお祈りします。どうぞよろしくお願いします。

お世話になりました…ウリさん！

2年間、下野市の国際交流活動にご尽力いただいた国際交流員のウルリーケ・シュラックさんが、任期満了のため6月下旬に帰国することになりました。帰国後のウリさんの更なるご活躍を期待します。長い間、大変お世話になり、ありがとうございました。

6月からは、新しい下野市国際交流員としてパトリック・ルムラーさんが生活安全課に勤務します。よろしくお願いします。